



# 南舞岡小だより

学校所在地 〒244-0814 横浜市戸塚区南舞岡4-15-1 (TEL823-4120,4130)

ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/minamimaioka/>

## 2020年 年頭に当たって

校長 平石 英一

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年5月から「令和時代」が始まって8か月。新時代幕開け早々に、オリンピックが開催される本年令和2年が、平和で子どもたちにとって健やかな成長のできる、実り多い年になることを願わずにはられません。そして、今日学校には、また子どもたちの明るい笑顔や歓声が戻ってきました。みんな元気に集まって、新年のスタートを切ることができました。去年は、交友関係のトラブルや、休み時間や授業中のけがが多かったのですが、子どもたちが元気にそして安全な生活を送ることができるよう、私たち教職員、しっかり気を引き締めて努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

さて、去年のテレビ番組の話題で恐縮ですが、NHKで放映された「ラグビーワールドカップが残すもの」(時論公論)という番組を見ました。解説されていた概要は、アジアで初開催の日本大会は「史上もっとも偉大な大会」と言われていたこと、出身7か国の選手が一つになり、「ONE TEAM」を合言葉としてベスト8進出を果たし、大きな盛り上がりにつながっていったこと、そして、ラグビー憲章が掲げる「品位・情熱・結束・規律・尊重」という基本原則が様々な場面で具現化され、それが多くの人の心をとらえたことというものでした。

番組では、スコットランド戦で、堀江選手が相手のロックにタックルされたときに、頭と頭がぶつかってしばらく動けなくなり、相手選手がすぐさま堀江選手の様子を気にかけて謝罪しているシーンを取り上げていました。堀江選手も、わざとではないことはわかっているという風に相手に応じるなど、爽やかにコミュニケーションをとっていました。ラグビー憲章の真髄を感じさせる場面でした。

番組の最後は次のようにまとめています。『ラグビーワールドカップを通して現れた状況、そのキーワードは「共生社会」。代表チームに選ばれるには、国籍に関係なく、その国や地域に3年以上居住するといった一定の条件を満たせばよい。そうした代表に分け隔てなく声援を送ることで、国籍や人種を越えて多様性を認め合う共生社会の重要性を、私たち自身がラグビーを通して学んだということだ。』(略)

振り返って、南舞岡小学校ではどうでしょう。子どもたち同士においても、一人ひとりの性格や能力、そして価値観はすべて異なります。それら多様性を認め合おうとする意識や感覚を高めていくことで、だれもが快適に過ごせるような学校に、さらに変容できると考えます。保護者の皆様のご支援、何卒よろしくお願ひいたします。

